

上田市公共交通活性化協議会 会議録

1 協議会名	上田市公共交通活性化協議会
2 日 時	令和7年3月21日（金曜日） 13:30～15:30
3 会 場	上田市役所 南庁舎5階 会議室
4 出席者	26名中 24名 出席 別紙名簿のとおり
5 会議概要作成年月日	令和7年3月29日
協 議 事 項 等	

1 開 会（事務局 上田市交通政策課 横沢課長）

2 あいさつ（佐藤会長）

3 委員の紹介（名簿配付）（事務局 上田市交通政策課 横沢課長）

4 報告事項

（1）地域公共交通利便増進事業の概要について（事務局 上田市交通政策課 坂口補佐）

- ・ 報告資料1-1、報告資料1-2 に沿い説明

※意見質疑

○千曲バス㈱ 伊藤上田営業所長

- ・ 通学定期券については料金を据え置くとのことだが、弊社においては通勤客の1/3が通勤定期を利用している。
- ・ その方にはどう説明をすればよいのか。

○事務局 上田市交通政策課 坂口補佐

- ・ 通勤に対する補助制度を持っている会社が多いため、まずはその制度でご対応いただければとご説明いただきたい。

○国土交通省 北陸信越運輸局 長野運輸支局 山岸首席運輸企画専門官

- ・ 報告資料1-1 にて、計画の実施期間は5年と記載がある一方、久保林線については3年間の実証運行を行い、存続を検討すると記載されている。
- ・ 利便増進計画について、原則実施期間中は取り組みを維持していくことが求められており、期間中に計画変更を行う場合は利便性を向上させるような内容でなければならないため、注意していただきたい。

○事務局 上田市交通政策課 横沢課長

- ・ 久保林線について、当初は廃止が検討されていたため、前回、北陸信越運輸局様へ相談に伺った際には計画へ記載していなかった。
- ・ このような中で、運行事業者である上田バス様と協議をする中で、運行継続をしていこうという話になり、計画へ盛り込むこととした。

- ・引き続き北陸信越運輸局はじめ長野運輸支局の皆さまへご相談をさせていただきながら進めていきたい。

○千曲バス(株)労働組合 副執行委員長 青木 様

- ・運転手確保について、イベントや会社説明会を開催していただいているが、採用人数が減少している。
- ・今後の運転手確保についてお考えをお聞きしたい。

○事務局 上田市交通政策課 坂口補佐

- ・ご指摘のとおり、採用人数は減少しているが、今年度3回説明会を開催した中でその反省を生かし、今後より良い形に向けて検証を行っていききたい。
- ・外国人採用や消防職員の転籍等も検討しているが、会社説明会を運転手確保の中心とし、よりブラッシュアップをした形で来年度も実施していく。

○事務局 上田市交通政策課 横沢課長

- ・説明会ごとに参加者の意識の違いもある。なお、3月開催分については意欲の高い方が参加していたと感じている。
- ・すぐに採用へ結びつかなくとも、翌年度以降の採用へつなげていくことが重要だと考えているため、こういった説明会を今後も継続していきたい。

○上田市公共交通活性化協議会 福本副会長

- ・通学定期券を据え置く場合、通常の運賃と比較し、割引率が高くなるため、輸送量が低下する恐れがある。
- ・幹線系統補助を受けている路線は、輸送量が低下することで補助金額に影響が出る可能性がある。
- ・ただし、通常運賃で定期券を買えばこの金額だが、学生が定期を購入する場合は市が補填をするという形を取れることで、正規の定期券販売金額分が事業者の収入として入ってくるため、輸送量の低下につながらない。
- ・補助の仕方は考えていかなければ、輸送量が大幅に低下し幹線系統補助を受けられなくなるという事態が発生する可能性があるため、注意が必要である。
- ・利便増進計画については、全路線を一度に申請するのではなく、できる路線から順番に変更申請を擦ればよいのではないかと。
- ・利便増進計画の計画変更も昔と比較すると実施しやすくなっている。
- ・初期の頃は利便性を低下させる計画変更は行いづらかったが、現実問題として、運転手が不足し減便せざるを得ないという事態もあるため、今は柔軟に判断される。
- ・しかし、それでも利便を低下させる変更はすんなりとはいかないため、計画に記載する順番は検討が必要である。
- ・また、先ほどの人材確保の話について、本来であれば若者にアプローチしていく必要がある。若者が喜んで働ける職場にしなければ、根本的な問題は解決しない。
- ・また、法律が変わったことで高校を卒業して、バス会社に就職し、19歳で大型二種免許を取得できるようになったため、地域で生まれ育った人が地域のために貢献することができる。
- ・バス運転手は仕事がきつく、給与も低いというイメージがあるが、そんなこともない。
- ・**報告資料1-2**の中で、全産業平均の年間所得額とバス運転手を比較しているが、あくまで全産業平

均と比較すると低いだけであり、中央値を見ればさほど変わらない。

- ・ただし、労働時間が長いということは事実である。なぜ労働時間が長いかというと残業をしなければ、それだけの賃金を得られないという構造にある。
- ・現状のバスサービスを維持するには、各事業者が運転手に支払っている人件費、時間単価を今の倍近くまで上げなければ維持できないと考えている。
- ・地域で生まれ育った方が、地域で仕事をし、新しい世代ができていけば地域が持続可能なものになる。そこを目指していかなければ、若者は仕事を求めて都会で出て行ってしまう。
- ・交通事業は地域から離れることができない仕事である。このような仕事に対して、お金をもっと入れ、若者が地域に貢献できる世の中にしていかなければならない。
- ・そういったことを考えたときに、今回の取組みはバス会社を守るためにやっているのではなく、この地域で人々が長く生きていくために必要な取組みであるという意識を持っていただければと思う。
- ・様々な地域で公共交通を見ているが、高校生が高校に通えない地域は減びていく。これは実際に地域に関わっていて実感することである。
- ・長野県でも減便や廃止の話が問題となっているが、地域によっては人が住めなくなり、高校生が瞬間になくなる。
- ・親の送迎がなければ高校に通えない地域に住みたいと思わない。将来大人になったとき、自分も子の送迎をしなければならないと考えると嫌になってしまう。
- ・上田市がそうならないように何をしなくてはならないのかを考える必要がある。
- ・そのためには、朝から晩までバスが運行されていて、通学に困らないという環境を作る必要がある。
- ・時間帯についても、朝6時から夜9時までにはしっかりバスを走らせるまた、昼間は30分に1本はバスが来るようにするなど決めて、それをわかりやすく情報提供していく。
- ・その中でバスを高頻度で利用する人は安く乗れる仕組みを作り、観光客からはしっかりと運賃を取っていく。
- ・こうして出た利益をサービスの拡充に回し、市民に還元するという仕組みにしなければいけない。
- ・多くの自治体はオンデマンドやライドシェアを行っている中で、上田市のような取り組みを行おうとしている自治体は他にない。
- ・この取り組みは地味ではあるが、本流であると思っている。
- ・大変だと思うがよい結果が出るよう頑張ってもらいたいと思う。

○事務局 上田市交通政策課 横沢課長

- ・上田市では5路線が地域間幹線系統として認定を受けており、国及び県から補助を受けている。
- ・この路線について、平均賃率、輸送量の低下によって認定が外れてしまうという話である。
- ・なお、幹線系統の平均乗車密度が1便あたり5人未満となると直ちに認定が外れるということはないが、補助額が減額となる。現状、真田線と傍陽線は5人未満であり、減額となっている。
- ・本件については利便増進事業の認定を得ることができれば、この減額、いわゆる密度カットが緩和される。
- ・当市としてはそこもメリットと感じ本事業に取り組んでいる。
- ・また、路線の見直しについて、できるところからとアドバイスをいただいた。
- ・本件については北陸信越運輸局様へ相談をさせていただき、また、既に乗り入れを行う商業施設からも承諾をいただいているため、そういった状況も踏まえて検討をしていきたい。
- ・欠損補助の話については単なるバス会社の赤字解消でなく、この地域を支える効果的な支出と我々もとらえており、そういった観点からも本事業を実施していきたい。

- ・本事業については事業者の協力が不可欠であるため、引き続き顔が見える状況で取り組ませていただきたいと考えている。
- ・また、福本副会長へも複数回にわたりご相談をさせていただいているが、引き続きご支援をお願いしたい。

○千曲バス(株) 白鳥取締役営業本部長

- ・5年間の協定を結ぶ中で、路線を廃止せざるを得ない状況になった場合は廃止できるのか。

○事務局 上田市交通政策課 坂口補佐

- ・原則はできない。
- ・ただし、ケースバイケースであり、最悪のことも考えられるため、そうなった場合は協議させていただきたい。

○千曲バス(株) 白鳥取締役営業本部長

- ・なぜこのような質問をしたかという、統計は取れていないが、路線バスの不正乗車が非常に多い。
- ・昨年から当社でも調査を行っており、ある生徒からはうちの学校では不正乗車が流行っているという言葉も出た。
- ・定期をカラーコピーする行為、また、他人が買った定期をコピーして利用するなどの不正があり、我々でバス停にてパスケースから定期を出し、本物かどうか確認するという本来やるべきではない作業も行っている。
- ・都度、対象の高校へも相談をしているが、しっかり対応していただいているとはいいいがたい。
- ・運転手のモチベーションを保つためには、不正乗車が横行する路線について廃止したいという思いがある。
- ・そういった中で、5年間の協定を結んだ後もこういったトラブルが続き、路線を廃止せざるを得ないとなった場合、それが可能かを質問した。

○事務局 上田市交通政策課 横沢課長

- ・原則はできない。
- ・しかし、軽微な変更という形で届け出で済む場合もあると聞いている。
- ・ただ、路線の廃止となると軽微の変更とはならないため、そうならないよう日々話し合いをさせていただいているので、引き続き協議をする中でより良い方向へしていきたい。

○千曲バス(株) 白鳥取締役営業本部長

- ・不正乗車が横行している学校は路線バスありきの学校であるにも関わらず、傍観姿勢である。
- ・事業者任せであれば、路線バスをやめてもいいと考えている。
- ・路線廃止が可能か可能ではないかは確認しておきたい。

○事務局 上田市交通政策課 坂口補佐

- ・可能か可能ではないかといえば可能だと思うが、都度協議をさせていただければと思う。

○上田市公共交通活性化協議会 福本副会長

- ・路線廃止となるとまずいが、増便しすぎた場合や路線を伸ばしすぎた際は手直しすることはできる。

- ・元の状態と比較して運行状況が大幅に悪化するという事でなければ認められないことはない。
- ・静岡県沼津市では増便を行った後に、運転手不足を原因として減便を実施している。
- ・こういった場合は協定を結んでいても、やむを得ないものであるため、その際は個別の協議を行う必要があると感じた。
- ・また、地域主体型の交通としてタクシーを利用した試みを行うとのことだが、これは計画へ掲載すべきである。
- ・それによってフィーダー系統補助の対象となる可能性が出てくる。
- ・乗用タクシーのフィーダー系統補助制度ができているが、全国でほとんど利用されていない。
- ・せっかくできた制度であるが利用しなくなってしまうため、一度対象となるかを確認していただければと思う。

(2) 路線バスにおける不正乗車への対応について（事務局 上田市交通政策課 坂口補佐）

- ・ **報告資料2** に沿い説明

※意見質疑

○上小高等学校長会 山越会長

- ・不正乗車について今回初めて知った。該当の学校へは連絡が言っていると思うが、高校の現場で共有されていないと感じた。
- ・私が校長を務める高校では、今年度一般の方から高校生がバスの座席にバッグを置いており、座りたいのに座れないというご意見をいただき、全校に向け生活指導から指導を行った。
- ・この不正乗車についても周知をして対策にあたりたい。
- ・生徒指導については、不正を行った場合のきちんとした指導、また、高校生に対して不正をさせないという2つが重要であると考えている。
- ・先ほど事務局から話が出たが、不正をするとこうなるということを高校生に理解させる必要がある。
- ・不正をした場合の指導とさせないための指導を一体として行っていきたい。
- ・各高校にすぐに共有し、できるところから対応をしていきたい。
- ・また、高校の生徒指導部会において、鉄道の乗車指導として、年に2回ほど教員も一緒に鉄道に乗り、指導を行っている。
- ・これをバスでもできればより不正の対策につながるのではないかと思います。

○しなの鉄道㈱ 経営企画課 守屋課長

- ・不正乗車の対策について、バスに限られているのは何か理由があるのか。
- ・鉄道においても同様の不正はよくある話である。
- ・対策としては旅客営業規則の中で罰則規定を設けすことで、規則的に運賃を取る仕組みができている。
- ・しかし、不正乗車の対策としてポスター等を作成するのであれば、是非鉄道も混ぜていただきたい。

○事務局 上田市交通政策課 坂口補佐

- ・おっしゃる通りバスに限った話ではないため、是非鉄道事業者様にもご協力いただき、公共交通全体を良くしていければと思う。

○千曲バス(株) 白鳥取締役営業本部長

- ・路線バスはワンマン運転であり、特に朝夕の通勤通学ラッシュ時は定期券を確実に1人1人確認することは難しい。
- ・また、先日ある高校の生徒さんの親御さんが定期券を購入しにきた際、うちの高校では2.3年生になると皆まじめに定期券を買っていないのに、わざわざ買うのがばかばかしいと言っていた。
- ・また、定期券をコピーして利用することが流行っているようだが、学生に罪悪感はない。
- ・不正についてはバス会社で調べることが当然ではあるが、我々の本来の仕事はお客様を安全に輸送することであり、不正を取り締まることは本来の仕事から逸脱している。
- ・当社でも4回ほど学校に行き、校長、教頭先生に話をしたが事業者任せという印象が強い。
- ・このような中で、通学定期を現行金額に据え置くということがよいのかはわからない。
- ・また、不正を確認するためにもう一人運転手や補助員を乗せるとそこに人件費が発生するため難しい。鉄道よりバスの方が不正乗車をしやすい環境である。
- ・ぜひ本件について学校で共有していただきたい。

○上小高等学校長会 山越会長

- ・その高校では生徒指導の対応を行っていると思うが、情報が共有されていない。
- ・本日早速不正乗車について共有させていただく。
- ・また、定期券についても紙でなくスマホ定期という形も取っていければ不正が減るのではないか。

○千曲バス(株) 伊藤上田営業所長

- ・**報告資料2**の3について案となっているが、こちらについては確定でよろしいか。

○事務局 上田市交通政策課 坂口補佐

- ・内容については確定でよい。
- ・4.5月には書面を整えてマニュアルを作っていきたいと思う。

○千曲バス(株) 伊藤上田営業所長

- ・承知した。
- ・昨日、期限が切れている定期券を利用していた方へ損害賠償請求を行った。
- ・しかし、あくまで氷山の一角に過ぎないと考えており、4月から学校が再開されたところで調査を行っていきたいと思う。
- ・なお、犯罪行為が確認できた場合は警察へ通報する。

5 協議事項

(1) 上田市公共交通活性化協議会委員の追加について(事務局 上田市交通政策課 木角主事)

- ・**協議資料1-1**、**協議資料1-2**に沿って説明

※意見質疑なし

⇒上田市公共交通活性化協議会委員の追加について **協議資料1-1**、**協議資料1-2**について、原案のとおり承認

5 そ の 他（事務局長 上田市交通政策課 横沢課長）

6 閉 会（事務局長 上田市交通政策課 横沢課長）